

がんばろう 南三陸町

復興第 6 2 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

6年の節目を迎え悲しみの七回忌

平成 29 年 東日本大震災南三陸町追悼式

平成 29 年 3 月 11 日の午後 2 時 30 分からベイサイドアリーナを会場に、6 回目を迎える「東日本大震災南三陸町追悼式」が開催され、佐藤町長・村井知事や来賓に遺族を含め、1100 名が七回忌の節目の追悼式典に参列した。

午後 2 時 46 分の地震発生時に全員で黙祷を行ない、国家主催の追悼式が中継放送され安倍内閣総理大臣の式辞に引き続き、文仁親王殿下のお言葉をいただいた。



全員で黙祷

南三陸町においては、その後で町長の式辞で、「多くの人々が一瞬にして失った」「猛威の前になすすべもなかった」、手と手をとって一歩一歩今日まで進んできた。「さん

さん商店街のオープン」「志津川 I C の開通」があり、「見守ってくれる全国・世界からの支援に感謝を述べる」と語った。

村井知事は「家族・友人・日々の生活まで失った」「震災後の南三陸町は壊滅的な被災から着実

に歩みを進めてきた」「風化させる事なく、後世に伝えることを確実に進めていく」と誓った。

星議長は「生をつなげていく使命がある」「すべての方々の平安を祈る」と追悼の言葉とした。

遺族代表として、戸倉の阿部成子さん(20)は、亡くなった父親へのメッセージを司会者が読みあげた。町の復興に貢献するために「南三陸ツアーを企画している」と文面に綴られていた。

震災からの復旧復興は進んでいるものの、人口減少という新たな問題に町は取り組んでいる。



全員で献花を捧げる

安倍総理の式辞から「英知を結集し、一丸となり復興していく。」「防災の技術の粋を世界に発信していく。」「夢と希望を持ち、手をたずさえ、乗り越えていく。」

文仁親王殿下のお言葉から、「国内外の人たちから、様々な形で支援を頂いた。」「工事にたずさわった方々に、感謝と敬意を申し上げます。」「地域の人たちを考えたとき、平穏な生活とこの記憶を決して忘れてはいけない。」「

さんさん商店街本設オープン

29 年 3 月 3 日町開き

3 月 3 日(金)に志津川地区被災地の嵩上げ地の、旧五日町に出来た「新さんさん商店街」が予定通りオープンし、連日大勢の来客で華やか船出となっていた。

◎水産加工品店……「海鮮マルセン」「ロイヤルフィッシュ」「㊦ヤマウチ」「及善蒲鉾店」
◎飲食店……「創菜旬魚はしもと」「かいせんどころ梁」「弁慶鮎」「食楽しお彩」「月と昴」
◎お菓子店……「雄新堂」「オーイング菓子工房 RYO」「菓房山清」
◎食料品店……「ちばのり店」「フレッシュミート佐利」「阿部茶舗」「ミニストップさんさん商店街」
◎商店……「さりょうスタジオ」「わたや」「NEWS・STAND・SATAKE」「BARBER

ミヤカワ」「垂べとう整骨院」「フレンズ」「おしゃれ空間 lips」「ヘアー Macana」「デイリー衣料アベロク」「たまや電気商会」「仏壇ギャラリー山形屋クラシコ」

商店街の隣りに移転した BRT の停留所から、「大阪から来ました。」という来場者がいた。志津川の商店街周辺は、整備もまだ終わらない中で、オープン時は周辺は大渋

滞となっていた。

震災復興で新たな商店街に、行列ができる商品の復活は、町としても町民も大変喜ばしい事と思う。今後も町と町民の復興と共に、商店街の新しい賑わいで、町の生活が安定し住民の生活が「安定・安心」と向う事が南三陸町民は願いだ。全国からの支援の皆さんも「早期の南三陸町の再建」を祈っている。

2011 年の 12 月に志津川御前下に、35 店舗でスタートし、今回 2017 年 3 月に「新さんさん商店街」として、市街地の 10m の嵩上げ地に本設オープンした、32 店舗(うち 5 店が新出店)。旧商店街では 5 年間で延べ 200 万人超の来店となった。

第 25 回 全国役員総会・懇親会
第 5 回 GWPJ 日本総会

愛の福袋支援の感謝を伝えるに



3 月 22 日に東京で開催された世界平和女性連合の「第 25 回全国役員総会懇親会」にご招待を受け、これまでの南三陸町の「愛の福袋支援」の被災者への仮設声掛け活動に対する御礼を伝えるに参加してきた。

世界各国の大使の皆さんも、これまでの母国への支援の感謝の為に、来賓として出席されていた。来賓者の紹介の各国大使の国は、アフガニスタン・コカタリカ・ハイチ・ジャマイカ等、25 カ国の名前があがった。そんな国へ女性の人権や子供達の教育環境の充実と、支援の物資を届けた話を聴く事で「皆さんと一緒に！」とのメッセージを伝えている。

私のテーブルの隣りの広島の下山さんは、南三陸町に支援で「世界平和女性連合」の会員の方を、全国の支部から約 20 名の皆さんを、震災の翌年に石巻・南三陸町・陸前高田まで、マイクロバスの運転手として来町された。

心に残った言葉に、「貧困撲滅に日本の女性が世界で活躍している。」「私たちには愛があります。真の愛があります。」、この言葉は人と人を繋ぐ原点であると私は思います。真実の支援は

議長・役員と記念写真



見返りを求めない事にある。招待された私たちは、全国から集まった南三陸町へ来てくれた皆さんに、感謝の言葉を伝えた。素晴らしい再会と活動・支援に感謝の懇親会だった。

ありがとう！志高卒業式

(前号よりの続き)

来賓を代表し、志高後援会会長の佐藤町長の祝辞では、「出前町長室」を、生徒の依頼で開催し、生徒のアンケートの一つを発表した。「大人の皆さんに支えて頂き、今度は子供や大人の皆さんを支えて行く。」と、嬉しい言葉を頂いたと述べた。また、大震災から「大切なものを失ったけど、全世界からそれ以上のご支援を頂いた。」と語った。志津川高校から贈呈された「モアイバス」にも、多くの活用の問い合わせがあったと語った。

送辞では在校生代表の菅原はると君が、「先輩は私たちの背中をそっと押してくれた。苦しい事も辛い事も乗り越えられた。」と、感謝の想いを語った。「伝統を守り、発展させて行く。」と誓った。

答辞では卒業生を代表して、大坂日菜さんは、「人と人との繋がりを大切にしていきたい。」「先生方に一緒に頑張ろうと言う言葉に励まされた。」「家族にはありがたい感謝の気持ちでいっぱいだった。」と話した。卒業してそれぞれの道で「希望の架け橋となる事を誓います」と結んだ。

卒業生は進学・就職へと進路も決まり、地元の農協・信金・水産加工業・電気工業など、就職は 16 名を数えた。将来は「南三陸町へ帰り、復興の役に立ちたい。」と、一端町をはなれても、復興に貢献したいとの考えや声が多くある。



りりしい卒業生

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年)
～ 地元報道より ～

11月の出来事

南三陸町

10月30日三陸道の志津川インターチェンジ(IC)が供用を開始した。開通の式典には安倍首相をはじめ、今村復興大臣が出席した。南三陸町佐藤町長や登米市の布施市長など、関係者400人が出席した。同区内の事業費は約150億円。志津川ICの開通で仙台市までは99分で結ばれ6分ほど短縮される。

◆11月1日に南三陸町の「あさひ幼稚園」の園舎が、ベイサイドアリーナ隣り志津川東地区西工区内(天王山)に完成した。津波で園舎を流出し5回目の引越しを経て再建された。落成式典には工事関係者など30名が出席し、園児は感謝を込め鼓笛演奏を披露した。

政府は秋の褒章に気仙沼・本吉地方から、南三陸町細浦の徳性寺住職の辻文生氏(69)が藍綬褒章を受ける。長年の更生保護への尽力が認められた。今回は県内で2人が藍綬褒章に輝いた。

◆歌津地区の「みなさん館」で、南三陸de芋煮会2016が29日に開催された。東日本大震災の復興支援の感謝と地域ににぎわいをと4年前から開催している。会場では秋ザケや焼きガキ、町内の野菜を使った芋煮が500食準備された。

◆南三陸町魚市場に震災後初めてのサンマが水揚げされた。水揚げしたのは同町歌津の小型サンマ船「第28大勢丸」、水揚げは約4トンで150gの中型が主体で、160g以上は1割だった。

● 南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見えます。

11月の出来事

気仙沼市

◇気仙沼市は住民主体で18年3月まで「気仙沼市新総合計画」の策定を目指し着手する。

◇全国学力テストの結果がまとまり、気仙沼市の小6・中3の成績が一部を除き全国平均以下となった。大震災による学習環境が影響していると見られる。

気仙沼市で持続可能な開発のための教育(ESD)とその地域拠点(RCE)についての「気仙沼ESD/RCE円卓会議2016」が開催された。実践者が事例を発表し討論を行い、連携や教育を考えた。

◇気仙沼市本吉町のモーランドで模型飛行機づくりなど、空を飛ぶことに興味を持ってもらおうと、「親子で空を飛ばう科学体験」と題したイベントが開催され、パラグライダー体験も行われた。

◇気仙沼市はセシウム8千ベクレル以下の廃棄物処理を県の方針を受け入れ、自前の焼却へと対応を検討していく。

◇気仙沼・本吉民主商工会は、菅原市長に店舗改装助成の要請書を手渡し市長も前向きに検討すると伝えた。小規模・中小企業振興条例の制定、建設業界の支援、小中学校の統合問題など12項目が盛り込まれている。

気仙沼市の市税収納率が15年ぶりに90%台の高水準となった。税額も震災前の94%(62億6千万円)となり、昨年より3億1500万円増加した。要因として、被災した事業所の再建で雇用が進み、個人所得が増えた事と滞納整理が功を奏した。

◇気仙沼市内に業界大手の福山通運(本社、広

1キロ当たり200円～150円で引き取られた。

南三陸町は志津川高校の生徒減少にあたり、復興の地元の担い手育成確保に、志津川高校の魅力アップへ懇談会を設置した。2010年度の413人に比べ、2016年度は258人まで減少し、40%も落ち込んだ。県内外から生徒を募集するために、中高連携を小学校まで伸ばし、英語教育・ふるさと教育・防災教育に町をあげて取り組むなどが提案された。

◆3日午前8時に入谷大船沢地内で、クマが木に登りカキを食べているのが目撃された。

◆「南三陸町議会と住民懇談会」が4日～7日、町内外を会場に開催された。初日の4日には志津川中学校仮設に住民8人が集まり、3つに分類された議員団が住民の意見を聴いた。住民からは多くの意見が出され、来年の議会選挙にあたり人口減少の観点から定数問題があり、議員として仕事をしてくれるなら現状のままでも良いとの声もあった。

南三陸町細浦の徳性寺(辻文生住職)に、1896年(明治29年)の明治大津波の被害の状況が記された掛け軸がある。明治大津波の1年後の1897年6月5日に記されたもので、明治29年6月15日夜8時ごろ約30mの激しい波に襲われ、細浦で119人、清水で166人が亡くなったと記されている。地域を襲った大津波の状況・怖さを後世へ伝え、犠牲者を悼む貴重な「掛け軸」が見つかった。

◆2017年の公立高校の予備調査で、志津川高校の普通科0.78倍、情報ビジネス科0.25倍だった。地区全体では0.99倍で、最高倍率は気仙沼向洋の機械技術で1.53倍だった。志津川高校の連携型選抜では2017年の志願者数は普通科72人、情報ビジネス科34人の募集人数となっている。

◆南三陸町少年少女ビニールバレーボールの結果。男子の部①伊里前小YY+1 ②戸倉小キッズモンキーズ 女子の部①9人の志津川小ガー

島県福山市・資本金約303億円)が、営業所を気仙沼市川口町内の敷地面積4230㎡で営業所を建設する。震災後には6社目の企業誘致となり、来年5月から事業を開始する。

気仙沼市市制施行10周年式典が7日開催され、市民800人が出席し功労者の表彰などを行った。東日本大震災からの節目の祝いであり、新たに復興を誓いあった。

◇気仙沼市の10月末の人口は66023人となり前月より32人が減少し、世帯数は26365世帯で28世帯が増加した。

気仙沼市・本吉地域の食材を使った「創作料理コンテスト」で、グランプリに気仙沼市本吉町の主婦・小野寺さん(28)の作品が選ばれた。今回の題材はスープで、小野寺さんの「気仙沼まるごとビスクスープ」が輝いた。気仙沼のサンマと本吉町小泉のトマト、モーランドの牛乳を使用したスープが受賞した。

◇今年3月で解散した気仙沼本吉・唐桑両地域協議会に変わり、本吉で11月、唐桑で12月に住民主体のまちづくりへ新たな協議会が設置される。

気仙沼市唐桑の漁師男席勇介さん(28)と内田さん(旧姓・24)が12日ユニークな結婚パーティーで話題となった。震災後に内田さんがボランティアで来市し、卒業後の2014年に移住し、今年3月に婚姻した。穴きん棒漁のモリでメカジキの入刀など、参加した80名から笑いもさそった。

◇宮城県は気仙沼市内内湾地区に「漁浜公園」を整備する。住民の意見を取り入れ、東屋・緑地帯・展望台を防潮堤と一体で整備する。来年度に着工し、完成を目指す。

◇気仙沼市国勢調査で、30代前半の男性の2人に1人が未婚で、50代後半の男性では20%が未婚、女性も40代前半がほぼ同率となった。20代後半の男性は73%・女性は58%となって

ルズ②入谷小8人のリトルデーモン。

◆宮城県は南三陸町の防災庁舎の補修工事に14日着手した。県有化20年により県の予算約7500万円で、鉄骨のさび、コンクリートの劣化などを補修し、来年2月完了を目指す。

◆19日に南三陸町戸倉地区にある「県志津川自然の家」が海の魅力を発信し、節目の40年を迎え、関係者80人が出席し記念式典が開かれた。開所以来全国から35万人が利用した。

◆南三陸町戸倉地区に整備した「南三陸海のビジッスセンター」が、19日から一般供用を開始した。交流人口の拡大に期待が寄せられている。総工費は5億5千万円だった。

◆志津川湾水系のサケ漁が初捕獲から1ヵ月が経過しているが、400匹にも満たない。震災後最悪の前年を下回った。沿岸漁業者に網揚げ要請など採卵確保を目指す。

◆18日「南三陸町杯グランドゴルフ大会」が開催され、72人が参加し日頃の練習の成果を競いあった。アトラクションの10mのホールインワン大会もあった。結果①首藤幸吉(志津川)②佐藤しめ(同)

22日午前5時59分頃に福島県沖のM7.4の地震が発生し、津波警報が発令された。南三陸町は震度3ながら、名足漁港で50cmの津波が観測された。気仙沼市では漁船が冲出し、沿岸部に緊張が走り、住民生活が一時マヒした。

◆入谷YES工房の高校・大学などの入学祈願で人気の「ゆめ多幸鎮オクトパス君」の制作が本格化している。今年はメッセージが入れられるなど、新しい製品も登場している。

◆南三陸町は最知副町長や幹部職員と町内の事業所を訪問し、子育てしやすい職場造りをと、取り組みへの協力をお願いした。

町の出来事の掲載について、11月と12月の掲載順が前後してしまいました。

いる。市は婚活イベントを支援する補助制度を創設するなど支援をしていく。

◇鹿折加工協同組合はシンガポール海外見本市に初参加し、出品商品が好評を得た。

気仙沼市内に住所がありながら実際には市外で生活している人が2300人にも上る。2015年の国勢調査に基づく市の調査でわかった。20歳前後の学生が中心で、台帳と実態に開きがあった。

◇気仙沼高校一年の内海貴二選手が、フランスで開催のフェンシング国際大会に出場する。

新気仙沼市立病院の進捗率が年内に8割に達する。来年11月の開院へ着々と進んでいる。赤石杉ノ沢地内の整備で、診療科18で病床は340床、駐車場は668台を確保し、総事業費は約246億円。

◇気仙沼市は災害公営住宅や市営住宅などの、将来への管理費確保と負担軽減措置のため、管理費工面で新基金の設置をする。

◇気仙沼魚市場で2年ぶりにミンククジラが水揚げされた。唐桑大木規網が漁獲した。

ESD(持続可能な発展のための教育)の理念に基づいた、取り組みで成果を挙げている学校を表彰するESD大賞に、気仙沼市立唐桑小が全国2位にあたる「ユネスコスクール最優秀賞」を受賞する。地域と連携しカキ養殖体験など、古里の自然を学ぶ活動が評価された。

◇気仙沼市は県と魚市場防潮堤の「トラックヤード拡幅」など修正案を大筋で合意し、着工へ動く。

◇気仙沼市階上地区で、住民とボランティアの手で空き家を改装し、カフェや居酒屋「架け橋」をオープンした。子育て中の女性の雇用などを進め、観光客やボランティアなどに気仙沼を「第2の古里」に思ってもらえる場所にしたいと取り組んでいる。